資料３－３

第３期スポーツ基本計画の実施状況の検証・評価に関する主な意見の概要

１．第 34 回スポーツ審議会総会における意見

○KPI の部分について、KPI の目標値が設定されていないものも複数見受けられるが、政策の評価にあたってはどの数値になったら「成功・達成」と評価するかを事前に明確にすることが重要。

○ロジックモデルを作成したことで、第３期基本計画で「何を目指していくのか」が可視化された。インパクト部分はスポーツ関係者だけではなく幅広い人たちに関係する内容であることから、特にインパクトの部分をよりしっかり考え、スポーツにあまり関係がない人に対しても、「スポーツには様々な意義がある」ということを伝えることが重要。

その点から、競技力向上に関しもっとも大切なのは「国民のスポーツへの関心の向上、社会の活力創出」であるところ、その他の要素も入ってしまっているため見づらくなってしまっている。全体として、インパクトの部分については何が大切か、ということを整理し、第４期に向けて議論を進めていく必要がある。

○インパクトでは東京大会のソフトレガシー、無形のレガシーについて多く記載されているものの、それまでの過程部分ではそれらを評価する KPI などの記載が見えない。「多様性や共生社会に対する認識の変化」「スポーツの価値やスポーツの社会的意義」等に関するレガシーを何らかの形で評価することができないか。

２．文部科学省政策評価に関する有識者会議の委員等からいただいた助言

○各施策の相乗効果を表現し、評価していくにあたっては、自分たちがコントロールできるものとできないものを峻別することがとても重要。一般的には、アクティビティとアウトプットまではコントロールできるものとし、初期アウトカム以降をコントロールできないものとする。現在アウトプットに書かれているものが初期アウトカムなのではないかと思われるものも見られるので、改めて整理すると良い。

○アクティビティで意図したものがアウトプットには出てくるはずだが、現在アクティビティとアウトプットの混線が起きている。現在の案よりももっと前のアウトプットがあるはずであり、効果発現の経路が行ったり来たりしているところやロジックが飛躍しているところがある。因果関係を整理するにあたっては細かく段階を刻んで手前手前でどういう変化があるのか考えた方がよい。

〇KPI は量を表すものと質を表すものがある。量を表す KPI が取りやすいため、量を表す KPI が多い印象。一方でどういう質を追求しているのか、KPI や KPI 以前の状態について、量を表現しようとしているのか質を表現しようとしているのか、意識して書き分ける必要がある。

〇長期アウトカムからインパクトに大きな飛躍がある。ロジックモデル上に表現しなくとも、中長期アウトカムからインパクトにどう貢献するのかということを整理すべきではないか。

〇KPI のモニタリングについても、健康に関する指標などなどすぐに成果が出るものではない。アジャイルな評価に当たって、拙速な評価をしないように注意が必要ではないか。中期的に長い目で見るものとすぐに成果を確認するものなど、時間軸を分けた評価が重要。

〇初期アウトカムとアウトプットの間に、どういうステークホルダーにどういう変化を促すのか入れるべき、という話になる。アウトカムについて、だれがどういう状況になる、という視点から表現ぶりを改めて整理すべき。

〇ロジックモデルに落とし込むと必ず漏れるものが出てくる。漏れることを前提に、政策を動かしていく中でどこでそれを吸い上げるかを念頭に置いて対応すると良いのではないか。ロジックを整理するにあたってもズレが発生してくるので、常につなぎ直しをし、柔軟に対応していくことが重要。